

大会申し合わせ事項

1 参加上の注意

- ① 車は必ず駐車場に駐車して、他の車のじゃまにならないように配慮する。
- ② ゴミは必ずチームで責任をもって持ち帰る。(父母への徹底)
【次回の体育館の借用が困難になる。】
※ 体育館内でのガムの禁止
- ③ 外履きと内履きの区別をつける。(特にチームのアップ時)
- ④ 忘れ物には十分気をつける。
- ⑤ 学校・体育館の器物を破損しないよう十分気をつける。
- ⑥ 各チーム開始時刻に遅れないよう気をつける。
- ⑦ 大会中の事故ケガ等に関して、主催者は応急処置のみを行う。
- ⑧ 選手は必ずスポーツ傷害保険に加入し、参加同意書は各チーム代表者が保管する。

2 競技上の注意

- ① 2020ミニバスケットボール競技規則及び、本大会申し合わせ事項を適用する。記載されていない事項についてはミニバスケットボールの理念に則り、審判裁量により決定を下す。
- ② 組み合わせ番号の若いチームは T・O に向かって右側のベンチとし、ユニフォームは淡色(白)とする。ベンチの交代は認められない。
- ③ ユニフォーム番号は原則として、4番から始まる一連番号とし、必ず濃淡2色準備する。ユニフォームの中から着用するアンダーガーメントやTシャツについて、ユニフォームからはみ出す場合はユニフォームと同色系か、白または黒の色でチームメイトと同じ色のものを着用する。
- ④ メンバー表は、試合当日、第一試合開始30分前までに本部に提出する。
(参加申込書のメンバー表に変更がある場合は必ず本部に届け出をすること。)
- ⑤ ハーフタイムは5分間、試合間は10分間とする。
- ⑥ 大会1日目、2日目の第1試合の審判は原則としてトーナメント表の○印と◎印のついたチームが行い、T・Oは◎印のついたチームが行う。T・Oについては、3日目まで◎がついたチームが行い、審判においてはベスト16のゲームから割り当てを行い、A級・B級・C級・D級の公認審判員を配置する。
- ⑦ 鳴り物の応援は禁止とする。
- ⑧ コーチ、チーム関係者・観客はゲームに支障のないよう、児童への教育的配慮をもって大会に参加する。審判に協力し批判はしない。
- ⑨ ゲーム中、ベンチから立ち続けて指示できるのは、コーチ又はアシスタントコーチのどちらか一人とする。(指示するコーチ、アシスタントコーチは、参加申込書に記載された人でライセンスタグを着用する。)
※変更は原則として認められない。諸事情により変更の必要がある場合は本部の許可を得ること。
- ⑩ インターバル(クォーター間)の1分間はメンバーチェンジタイムとしてとらえ、速やかにメンバーチェンジを行い、次のクォーターを開始する。
- ⑪ 得点したチームのプレイヤーは、ゴールの後のボールに触れてはならない。
(繰り返された場合はテクニカル・ファウルの対象となる。)
- ⑫ 次の場合チームはゲームを没収される。ゲームは20-0で相手チームの勝ちとする。
 - ・ 試合開始より15分過ぎても試合が成立しない場合
 - ・ ゲームの進行を妨げる行為をした場合
 - ・ クルーチーフ(主審)がすすめたのにもかかわらず、なおプレイをすることをこぼんだ場合
 - ・ 選手が8名以上そろわなかった場合

- ⑬ ヴァイオレーション後ショットが入った場合は、審判の保持でフリースローラインの延長線のサイドからスローインを行う。
- ⑭ ゲーム開始前の練習や円陣を組んでのかけ声は、相手チームベンチ前のコートで行う。(ゲーム開始1分前まで)
- ⑮ スローインのボールを手放す前に、審判に指示されたところからライン沿いに1m超えて移動することはヴァイオレーションとなる。一度移動してから逆の方向に移動し直しても差し支えない。
※審判は注意を与えてスローインのやり直しをさせることもできる。
- ⑯ ゲームにおけるディフェンスは必ずマンツーマンで行うこと。
※1日目・2日目のコミッショナーは帯同とし、各チームから1人コミッショナーをする。3日目(ベスト16)からは、連盟で割り当てを行い配置する。

3 審判上の注意

- ① 審判着の着用、笛の準備をする。(厳守)
- ② ゲーム開始まで(10分間)に次の事を確認する。
 - ・ スコアシートの記入状況、コーチ又はアシスタントコーチサインの確認
 - ・ 各チームのゲーム用ボールを持ち寄り、使用するボールをクルーチーフ(主審)が選ぶ。
 - ・ T・Oメンバー、用具、得点板、得点板チーム名表示の確認
 - ・ 3分前、1分前の合図
- ③ ハーフタイムの5分間でスコアシート・得点の確認をする。
- ④ 後半のコートチェンジによる、ポゼッション・アローの矢印方向と得点板表示の変更を確認する。
- ⑤ 3クォーターの開始前には、10名の選手が出場されていることを確認する。
- ⑥ ゲーム終了後、直ちに次の試合開始(10分間)を計測開始し、スコアシートを確認してから本部まで提出する。
- ⑦ 会場により、スローインに支障がある場合はディフェンスを1m程度後方に下がるよう指示する。(スローアーから半円1m)
- ⑧ 後半を終わった時、両チームの得点と同じならば1回3分間のオーバータイム(延長)を必要な回数だけ行う。各オーバータイム(延長時限)では後半と同じバスケットを攻撃する。各延長時限の前に2分間、間をおく。
- ⑨ トスアップ後、最初の保持が確認できたら、クルーチーフ(主審)は次の攻撃方向を示すと良い。
(最初のアローの矢印方向)

《ありがとうリスペクト運動の実施とお願い》

注：コロナ感染拡大防止の為、あいさつは指導者同士、声をかける程度でお願いします。
選手は、あいさつ無しで、速やかにベンチをあけるようにしてください。(消毒の為)

4 コミッショナー上の注意

- ① コミッショナーとしてふさわしい服装で、笛の準備をする。
※襟付きの上着に、長ズボンが望ましい
- ② ゲーム開始まで(10分間)に次の事を確認する。
 - ・ コミッショナー席、チェックシート、旗の確認(コミッショナー席はT・O側)
 - ・ チェックシートの記入状況、コーチサインの確認。
 - ・ 審判へのあいさつ、両コーチへのあいさつと確認。(指さし・声出し)
 - ・ T・Oへの声かけと確認。
(赤旗時は、コミッショナーが笛をならしてタイマーストップ)
- ③ 赤旗時の対応については、コミッショナー委員長資料を参照。(HP掲載)